

縄文の暮らしに触れて

藤森照信さん設計「古過庵」活用

今月から体験イベントと通年企画

茅野市出身の建築史家、建築家の藤森照信さんが設計し、市民とともに建築した竪穴住居「古過庵」を活用するちのDMO光まちづくり推進機構(DMO)の縄文体験イベントが今月から始まる。年間企画と毎月1回の体験イベントの2本立て。茅野市の自然の中で縄文人の暮らしの一端に触れてもらい、感性を育む機会を提供する。

(野村知秀)



茅野市の与助尾根遺跡の隣接地に市民らとともに造った竪穴住居「古過庵」の完成を祝ったセレモニー。今年度は活用の段階へ＝昨年11月24日

古過庵は、昨年9月から約2カ月かけて建築し、藤森さんと県内外から集まった延べ約220人が力を合わせて造った。ちのDMOは完成後を見据え、昨年6月に縄文を体

験できるモニターツアーを市教育委員会と連携して実施するなど準備してきた。縄文時代に栄えた歴史を持つ茅野市や八ヶ岳西麓地域の価値を考古学の分野だけにとどまらせ

ず広く観光や教育に生かす試みで、市尖石縄文考古館と協力して取り組んできた。通年企画は4月12日の縄文流の畑作りを皮切りに、土器作り(6月)、黒曜石を使った

石器作り(7月)、土器焼きと古過庵で過ごす夜と朝(9月)、自作土器を使った調理と鹿皮を加工する革作り(11月)、竹かご作り(来年1月)を計画。東京都埋蔵文化財センター主任調査研究員などを務め、土偶「多摩ニユータウンのビーナス」を発掘した小栗一夫さんがメインガイドを務める。登録料3000円。定員はそれぞれ20人。参加費は各日とも7000円(2日間の企画は1万4000円)。10歳～高校生を対象にした子ども料金は3500円(茅野市の子どもは2500円)。月一体験イベントは毎月1回、週末に開く。1回3時間のプログラムで6月から始まる。来年1月までに石斧作りや染め物体験、火おこしとジビエ料理、耳飾り作りなどの企画を用意している。定員は各回20人、1月の竹ひごを使ったかご作りは6人。料金は5000円。子ども料金は2500円(同1500円)。同企画を担当するちのDMOの田子直美さんは「電気もガスもない時代を心豊かに生きた縄文人の知恵やアイデアを体験を通じて学び、縄文時代に流れていたであろう時間的な感覚や空気を味わってほしい」と話している。申し込みは「ちの旅」のホームページ内(<https://chino-tab.jp/>)申し込みフォームから。問い合わせは同機構(電話0266・73・8550)へ。